

TWO-FORTY 誌第 120 号(2024 年 12 月発行)の「雑話題」で触れている、「IT 基礎教養 自然言語処理&画像解析 “生成 AI”を生み出す技術…鎌形桂太 (著)、三好大悟 (監修)」という書籍を、今年(2025 年)1 月に著者(義理の甥)からもらって、少し勉強しているが、中々簡単には理解できません、加齢による理解力の欠如のなせる業か、もともと能力が無いのか、途中で投げ出し、しばらく間を置いてまた思い出したように本を広げて見るという繰り返しです。

以上のような状態で、生成 AI に関する記事を書くのはおこがましいが、この本の他、WEB の記事や、PC 雑誌の記事等で得た知識で、これはすごいと感心したものを一部記事にしてみます。(書くことで、勉強の復習にしている)

ネット検索も AI で最新情報もカバーしている、Google などの検索サービスで検索結果に AI の回答を表示するケースが多くなった。

既存の検索サービスは、キーワードに該当するサイトを列挙するだけなのでユーザーがサイトを巡る必要があったが、生成 AI ならそのものズバリを答えてくれる。

当初 ChatGPT は自身の学習データの範囲でしか回答できず、最新の情報を持ち合わせていなかったが、今では質問に合せてネット情報を自動で参照して回答するようになった、最新の情報を確実に取得するには、ChatGPTでは、「ウェブ検索」のボタンを押してから質問をすること。

「2025 年の」といった時間の指定も効果的だし、検索では、創造性より正確性の方が大事なので「不正確な情報は避けて」といった文言を入れるのも有効のようだ。

従来の、文書やメールの検索のやりかたは、キーワードで検索していたが、PDF や Word の文書内から必要な情報を探すなら、ChatGPT にファイルをアップロード、探したいテーマをプロンプトに入力すれば OK だ。

メールの検索では、Gmail ユーザーなら Gemini の利用だが、Gmail との連携機能は標準ではオフになっているので事前に有効化する必要がある、Gemini の画面左下の歯車のメニューから「アプリ」を選択し「Google Workspace」をオンにする、これで、検索したいメールの内容一部を記載して問い合わせれば OK だ。

面倒な文章の下書きは AI(ChatGPT や Gemini)に頼ろう、プロンプトに必要な項目を入れるだけで良い、出来上がった文章が堅苦しければ、「もっとフレンドリーに」等のリクエストをする、一度の指示で理想の文章になるのは難しい、何度かの対話で文章を仕上げるのが生成 AI 活用全般のテクニックだ。

もっと手早く文章を仕上げたいなら、文章生成専用のサービス「Leap AI 文章作成ツール…<https://leap-me.com/ja/app/text-generator>」の利用だ、「目的」、「トーン」、「ターゲット」などを所定の項目に入力すれば、それに合わせて文章が作成される。

トーンは四つの項目だが、最後の「厨二病風に」とは何だ？と思われる方もいるかも知れませんが、「中2病」の別表記と知ればわかるのでは無いか？

長い文書や、長尺の動画に目を通すのは大変だ、そんな時は AI に要約させる、文書の場合は、プロンプトに文書を貼り付けるか、PDF などのファイルをアップロードして「要約して」と指示すれば、あっという間に要約してくれる。

ブラウザが Edge なら、Copilot が組み込まれているので、アップロードしなくても、表示中のウェブページや PDF を要約できる。

YouTube 動画の要約は、Geminiで実行、動画の URL を添えれば、要点やその再生位置を教えてくれるので気になる場面は YouTube ですぐに再生できる。

生成 AI でありがちな疑問や不満は、「質問の意図を理解してくれない」、「回答がまるっきりの外れ」、「何故か事実とは異なるウソをつく」というようなものだ。

これの解決は、「指示内容はできるだけ具体的に」、「前提情報を十分に与える」、「回答の形式やスタイルを指定」だ。

生成 AI は、学習の積み重ねで進化している、ユーザーの入力内容は基本的に学習される、個人情報を入力すると情報漏洩の危険性があり要注意だ。

学習させないようにするには、入力内容を学習させない設定をする必要があるが、ChatGPT、Gemini、Copilot 等のそれぞれのサービスによって対応が異なるので一寸面倒、安全のため、本当に重要な(漏洩したら困る)内容は入力しないことだ。

生成 AI の進化と普及に伴って、偽情報の拡散や、サイバー犯罪での悪用など負の側面も目立ってきた、

政府や企業は様々な対応を進めているが、まだ決め手に欠ける、現状ではユーザー自身が AI の怖さを理解し、判定サービスなどを活用して自己防衛するしか無い。

冒頭に述べたように、AI の勉強途上です、一応検証しながら書いたもので、間違ったことを書いてはいないと思いますが、あくまでも参考になれば程度の記事です。

何とか、認知症にならないようにと、もう年齢的に分不相応の分野にも、無謀にも無理やり頭を突っ込んで挑戦しています。(笑)

(2025 年 6 月記)